

第1回 成瀬ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場

－ 議事概要 －

■開催日時 平成22年11月17日（水）11:10～11:55

■場 所 秋田河川国道事務所 2F 大会議室

■出席者

- ・構 成 員 秋田県知事、秋田副市長（市長代理）、横手市長、湯沢市長、大仙副市長（市長代理）、羽後副町長（町長代理）、東成瀬村長
- ・検討主体 東北地方整備局長、河川部長、秋田河川国道事務所長、湯沢河川国道事務所長、河川調査官

■討議概要

1. 検討手順の概要（案）について

主に資料3及び参考資料4により事務局から説明

2. 討議

- ・ T P Pで米づくりを今後どうするかという話が地元ででている。
- ・ 地球温暖化により米を作れる地域が北上すると思っている。
- ・ 米づくりを軸としたまちづくり、地域づくりが必要なことから、かんがい用水は今後も減らないと考える。
- ・ 水を有効に使うという考え方は、これからも持ち続けなければならないだろう。それをかなえるのは、ダムを建設することがベターであろう。
- ・ 近年、直接大きな被害は受けていないが、集中豪雨により堤防を越えるおそれがあるといった場面は幾度か遭遇している。
- ・ 水害から生活を守る会を設置し、避難訓練などの活動を毎年行っている地区がある。
- ・ 市長対話集会で、堤防の整備など地域の方々からの要望は、まだまだ多く寄せられている。
- ・ ゲリラ豪雨の発生等もあり地域住民の洪水に対する不安解消のため、治水対策の必要性を強く感じている。
- ・ ダム事業の利水、治水効果を県民にもっと簡単に理解させる方策が必要であり、ダム事業について県民の理解度は、まだ不足しているのではないか。
- ・ 子ども、一般県民にもわかりやすい、理解してもらえるパンフ・資料

が必要である。

- ・過去の洪水で大変な被害を受けた方が、皆瀬ダムが完成し枕を高くして寝られるようになったが、成瀬ダムはいつできるのかと期待している。
- ・村としても、成瀬ダムの完成に向け、ダム対策室を設置し対応している。
- ・上流部には、すばらしい自然があり、観光資源があり、成瀬ダムが完成することで、地域に大きな観光資源としての役割が期待されている。
- ・今回のダム検証により事業がストップしたことで、地域住民は不安に思っていることから、今後のスケジュールをできるだけ一般へ知らしめてほしい。
- ・雄物川の中流部の堤防整備率は非常に低く、治水安全度が低い状況にある。また、近年の集中豪雨等による洪水で家屋等への被害が発生しており、また、圃場整備を実施しても、被害が発生するようでは無駄な事業になる。洪水の調整としてのダムが必要。
- ・利水についても、ある地域では、地下水もなければ、沢水も夏場には枯れるため、良好な水源が確保できないことから、現在、暫定豊水水利権で簡易水道を供用しており、成瀬ダムが中止になると大変なことになる。
- ・また、水質の悪化、水量不足が深刻な問題になっている地域についても、暫定豊水水利権のため、年数回発生する渇水時は取水できないことから、給水車で対応する必要があるとあり、成瀬ダムを完成させ、安定した取水を可能にしたい。
- ・治水の恩恵を受けており、感謝している。
- ・また、大久保をはじめ、固定堰の改築は、農業関係者をはじめ、治水としても活躍していることから、周辺住民も感謝している。
- ・鶴巣地区についても、幹線道路の冠水等発生しており、現在、改築に着手しており感謝している。
- ・地域住民および成瀬ダムの下流に位置する地域としては、ゲリラ豪雨、また、下流の利水を考えると、地域で連携しダムの早期完成を進めたい。
- ・成瀬ダムについては、治水対策として早期の完成を望んでいる。
- ・地球温暖化が原因と言われているゲリラ的集中豪雨が発生しており、治水安全度の低下が考えられるため、流域全体で可能な限り調整する必要がある。

- ・成瀬ダムは、流域全体の洪水被害を軽減するほか、灌漑、水道、発電など多目的であり、恩恵を受ける市町村にとってはなくてはならないダムである。
- ・中流部では、S62・H19等過去の洪水で床上、床下浸水、農業の被害、最近のゲリラ的な集中豪雨も発生していることから、地域住民は非常に不安に思っている。
- ・成瀬ダムの早期完成はもちろん、連続堤防の整備、河道掘削を促進して地域住民の安全、安心な暮らしを確保していただきたい。
- ・ストック（ダム）とフロー（河川）による管理が必要、どちらか一方で全部整備するのは困難なことから、全体費用を勘案しながら河川流域全体で整備する必要がある。
- ・旭川ダム完成後、旭川流域の洪水被害はなくなったが、最近では、大丈夫かなと思っていたところで被害が発生している。農業用水路網が広域的に発達したことから、河川がオーバーフローしている現状もある。
- ・予期せぬ気象に幅広く対応できるようにしなくてはならない。
- ・水資源をストックすることは、地域全体の様々な可能性が高まる。
- ・温暖化が進み、世界的に砂漠化が進んでいる。貴重な水資源をストックすることで地域全体の様々な可能性が高まる。
- ・ダムの機能は単純な治水、利水のみならず、ダムの水資源を活用し、地域戦略として新たな産業集積を図ることも考えられる。
- ・総体論的にダムはここまで進んできており、これをすみやかに完成させるのが筋ではないか。

（平成22年11月29日 事務局とりまとめ）